神病理２５０３０８

2025 年 6 月

公益社団法人 神奈川県病院協会
会長　吉田 勝明　様

株式会社神奈川新聞社
代表者名：代表取締役社長 須藤　浩之

『2025 年がん征圧キャンペーン』特集へのご協力のお願い

謹啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別なるご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

さて、神奈川新聞社では、今年も 9 月のがん征圧月間に、がん征圧に対する県民の意識向上を図ることを目的とした「2025 年がん征圧キャンペーン」特集の掲載を予定しております。これは弊社が例年、貴会のご協力で特集しているもので、日本人の死亡原因第 1 位である「がん」に立ち向かうため、「がん治療の今」や「がん検診の大切さ」を広く県民に伝えることを目指した企画です。この特集に対する読者の期待は大きく、弊社としてもその期待に応えるべく全力で取り組む所存でございます。

つきましては日夜、県民の健康維持に努められております貴会のご協力を是非、賜りたくお願いする次第でございます。趣旨ご賢察の上、ご高配賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

敬具

2025年がん征圧キャンペーン特集企画案

掲 載 日：2025年9月中旬＝予定
紙面内容：　　4頁

<table>
<tr><td>記事8段

・患者会の方のお話
・がんに関する情報
・その他</td><td colspan="2">記事8段×2ページ

・医師や医療関係者による座談会や対談
⇨ピロリ菌と胃がんの関係＆検診情報についての発信を行う。</td><td>記事8段

・県医師会会長よるご挨拶文
⇨近年のがんの特徴や、がん検診の重要性について発信する。</td></tr>
<tr><td>広告7段</td><td>広告7段</td><td>広告7段</td><td>広告7段</td></tr>
</table>

1面（フロント）

- 県医師会会長様ご挨拶
- 近年のがんの増加傾向やがん検診の重要性
- その他

2・3面（見開き）

・「ピロリ菌と胃がん」をテーマに専門医数名の座談会を実施。ピロリ菌と胃がんの関係性を中心に、治療法や対策など、胃がんに関する最新の知見を紹介していただきます。

4面（終面）

・患者会の方などに、がんに関係する情報や自身の経験などのお話をおうかがいいたします。

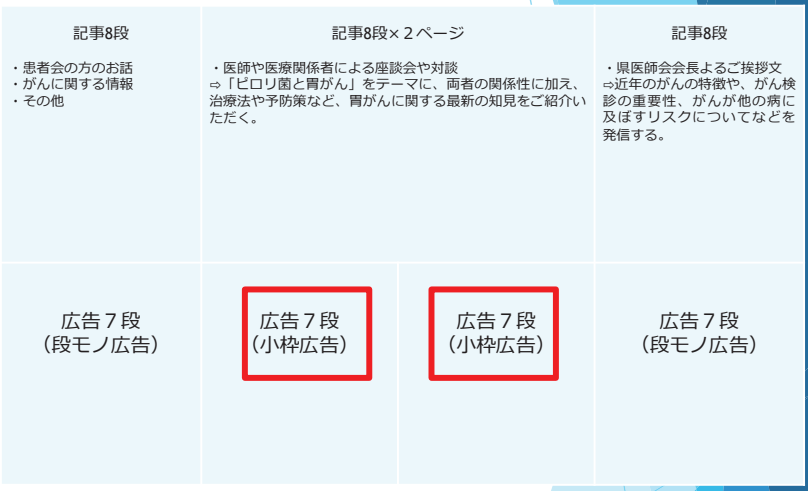
【お問い合わせ】
神奈川新聞社 クロスメディア営業局
広告部　デジタル部　森井　洋平
電話：080-7047-7051 / メール：y-morii@kanagawa-shimbun.jp

ご掲載料金について

①小枠広告

1枠（天地2.3㎝×左右7.2㎝）
40,000円（税込み：44,000円）

※以下ご掲載にあたる注意事項です
・原稿はモノクロ掲載になります。
・原稿制作料は別途承ります。
・2枠以上の連合広告も承ります。
・広告掲載の位置指定はできません。



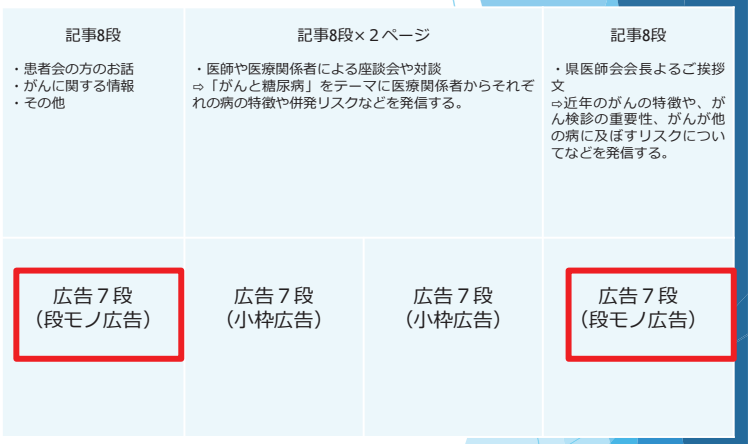
②段もの広告

全7段（天地23.8㎝×左右37.8㎝）
1,085,000円（税込み：1,193,500円）

全5段（天地16.9㎝×左右37.8㎝）
795,000円（税込み：874,500円）

半7段（天地23.8㎝×左右18.8㎝）
567,000円（税込み：623,700円）

全2段（天地6.6㎝×左右37.8㎝）
344,000円（税込み：378,400円）



申し込み締め切り　　8月22日（金）

※ご注意
病院・診療所などの広告は、医療法により掲載内容に制限があります。特に診療科目の表示等にはお気をつけください。

©神奈川新聞社　無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します

2024　がん征圧月間キャンペーン特集

がんを取り巻く状況と、最新のがん治療

座談会

「正しくおそれ」向き合う

がんは、日本人にとって身近な病気。生涯で2人に1人が罹患（りかん）し、毎年死亡者の約3分の1を占めている。一方で、がん検診による早期発見や治療技術の進歩により根治できる確率が高まってきた病気でもある。神奈川県立がんセンターの酒井リカ病院長、北里大学病院集学的がん診療センターの佐々木治一郎センター長、そして県医師会の笹生正人理事に出席いただき、最新のがん治療をテーマに従来の3大治療法、近年注目される治療法、さらに患者や家族との向き合い方などをお話しいただいた。（文中敬称略）

司会・神奈川新聞社 統合編集局長　吉田 勝行

健康に関する
正確な知識を身に付ける

北里大学医学部横断的医療領域開発部門臨床腫瘍学教授
北里大学病院集学的がん診療センター長

佐々木 治一郎医師

ささき・じいちろう　1998年熊本大学大学院医学研究科（内科系）修了。2011年4月北里大学医学部赴任。14年2月より現職。日本内科学会総合内科専門医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医。

医師や看護師との
何でも相談できる関係を

神奈川県立がんセンター
病院長

酒井 リカ医師

さかい・りか　1989年佐賀医科大学（現・佐賀大学）卒業。2011年より神奈川県立がんセンター血液・腫瘍内科部長。副院長などを経て23年より現職。日本血液学会血液専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医。

がん治療とがん検診の現状

―まず、現在行われているがんの治療法についてお聞かせください。

酒井　がんの治療法には、大きく分けて、手術、放射線療法、がん薬物療法があり、3大治療法と呼ばれています。

手術は、がんを物理的に切除し取り除く治療です。根治の可能性が高いという特長があります。

放射線療法は、高エネルギーの放射線でがん細胞を破壊する治療です。X線による治療が最も多く、精密にX線照射を行う高精度放射線治療（※1）も開発されています。また、X線よりエネルギーが高い、陽子線や重粒子線による治療も一部の疾患で保険適用となっています。

がん薬物療法は従来からの〝細胞障害性抗がん薬〟に加え、個別のがん細胞の特徴を攻撃する、分子標的薬（※2）もあり、がんの治癒、進行抑制、症状の緩和などを目的として、薬物療法単独で行われるほか、手術や放射線治療と併用することもあります。

各治療法にはメリット、デメリットがあり、またそれぞれの治療法も著しく進歩しています。

笹生　特に手術による外科治療は早期のがんに有効で、早目に処置すれば根治も期待できます。腹腔（くう）鏡手術（※3）が一般的になるなど、医療技術も大きく進歩し、患者さんの負担も軽減しました。例えば、乳がんの縮小手術と再建手術が同時にできるなど、昔とは大きく変わってきました。

―やはり、早期発見が大切なのですね。がん検診にはどのような手法や特徴があるのでしょうか。

佐々木　がん検診の目的は、がんの死亡者を減らすことです。市区町村が行っている対策型は、検診集団からがんの疑いのある人を見つけ出し、早期発見・早期治療に結びつけて全体の死亡率を減少させることを目的としています。

少し整理しておきたいのは、人間ドッグなど個人の健康管理を目的に行うものと、社会全体としてがん患者の死亡を減らす対策型検診とはその目的が少し異なることです。一般にがん検診と言うときは、通常は対策型検診のことを指します。厳密にいうと年齢や、例えば肺がん検診の場合など、喫煙の有無で検診内容が異なる場合があります。

笹生　佐々木先生が言われたように、対策型検診は、肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、子宮頸（けい）がんの、いわゆる5大がんを対象に行われています。

死亡率の減少効果が証明されている有益なものですが、問題は受診率の低さです。神奈川県では、職場や個人が受けている検診を含めても肺がんだけが50％に到達するぐらいで、あとは40％程度です。本当にがんによる死亡者を減らすのであれば欧米のように80～90％ぐらいの受診率が望ましいのです。さらに子宮頸がんの感染リスクを80～90％防ぐことができるHPV（ヒトパピローマウイルス）ワクチンの接種率なども含め、がんの早期発見や予防をどう進めることができるか、大きな課題だと思います。

―会社や職場では健康診断が進んでいるように思えますが、なぜ受診率は上がらないのでしょうか。

笹生　医師会も学校での啓もう活動などに取り組んでいますが、市区町村によるがん検診のさらなる周知や、子どものころからのがん教育なども含め、地域全体としてがんへの正しい理解を広げることに取り組まなければなりません。

佐々木　私たちも中学生や高校生のがん教育を実践する中で、がん検診の必要性という内容を含むようにしています。

ベースにあるのは社会全体でヘルスリテラシー（健康についての情報を正しく理解し利用することができる能力）を高めていかなければならない、ということです。健康に関する正確な知識を身に付ける教育が今までなされてこなかったことが、受診率の低さにも反映されているのだと思います。

笹生　進んだ医療技術を生かすためにも、早期発見、早期治療は常にがん治療のキーワードになります。

検診のメリットは大きく、早期発見できれば乳がんなどでも5年生存率が100％に近くなります。それだけに、検診の大切さを多くの人に広げていくことが重要だと考えます。

進化するがんの治療技術

―最近のがん治療では、これまでの3大治療法に加えて、治療法も広がったと聞いています。最新の治療法や期待される効果についてお聞かせください。

酒井　新たな治療法として免疫療法（※4）、がんゲノム医療（※5）があります。広い意味でがん薬物療法のカテゴリーに入ります。

免疫療法は、体にある免疫細胞の働きを増強させ、自身の免疫の力を借りながらがん細胞を駆逐する治療法です。

がんゲノム医療は、標準的な治療法が確立していない、あるいは、効かなくなった患者さんに対し、がん細胞の遺伝子を網羅的に検査するがん遺伝子パネル検査（※6）を行い、新たな治療法がないか検討する、いわゆる個別化医療です。

この検査は保険が適用されますが、国が認めるがんゲノム医療中核拠点病院、拠点病院、連携病院でしか行えません。神奈川県では15施設が指定を受けています。

佐々木　私は手術、放射線、薬物療法に加え、緩和療法（※7）、支持療法（※8）を挙げたいと思います。

一部の進行がんでは、早期に専門的な緩和療法（緩和ケア）を患者さんに提供すると、薬物療法並みの延命効果があることが報告されています。

また、支持療法では、副作用の予防や治療という領域で新たな薬が開発されてきています。例えば、がんが進行すると体重が落ちたり、食欲が落ちたりするのですが、日本ではそれに対する薬も世界に先駆けて使えるようになりました。

これまでがんの治療としてあまり認識されていなかった領域が実はがんの治療にとって非常に重要だと認識されてきました。今後は、各領域での最新の治療をいろいろ組み合わせて行う集学的治療が、ますます重要になってくるでしょう。

―現在のがんの中で多いのが、男性は前立腺がん、女性は乳がんです。それぞれ最新の治療法についてはどうでしょう。

酒井　いずれも治療の進歩が著しく、例えば前立腺がんは、ロボット手術が最初に保険適用になりました。

また、手術が困難な場合も放射線治療が選択肢になり、X線による高精度放射線治療や、重粒子線や陽子線治療も保険適用になっています。薬物療法はホルモン治療が基本ですが、患者さんの状況やがん細胞の特徴に合わせて、抗がん剤も含めた薬物療法も検討されます。

乳がんは、がん細胞のタイプや病気の進行状況によって推奨される治療法が異なります。治療法の選択にあたっては、患者さんと医療者が十分に相談し、体調やラ

ロボット手術（イメージ）

がんの3大治療法

手術	がんの特定部位を直接攻撃する局所的な治療法。がんを完全に取り除くことで再発のリスクを減らすことができ、根治の可能性が高い治療法。今日では、内視鏡を用いた鏡視下手術（胸腔鏡下手術、腹腔鏡下手術）やロボットアームを操作して行うロボット支援下進化手術など、低侵襲手術が増え、がん治療における外科手術のイメージがかなり変わってきた。
放射線療法	高エネルギー放射線でがん細胞を直接破壊する治療法。X線による外部照射が最も多く行われている。手術が難しい場合の根治目的のほか、がんに伴う痛みを和らげるなどの症状緩和の目的でも放射線治療が行われる。一般に手術と比べると体への負担が少ないが、周辺の正常細胞にも何らかの影響が及ぶこともある。また、X線照射が効きにくいがんもある。多方向からX線を照射し、がんに線量を集中させる、高精度放射線治療も行われている。また、がんへの放射線量の集中性がより高く、周囲臓器への影響を低く抑え、高い治療効果が期待される、陽子線や重粒子線による粒子線治療も、保険適用が拡大している。
がん薬物療法	従来型の抗がん剤（細胞障害性抗がん薬）や、前立腺がんや乳がんなどで用いる内分泌療法（ホルモン療法）のほか、個々のがん細胞に特徴的なタンパク質を攻撃する分子標的薬などが含まれる。一般には全身に広がっているがんに対し、生存期間の延長を目的に行われるが、一部の疾患では、手術や放射線治療と組み合わせて、再発を防ぐ目的で使われる。また、血液のがんなどでは治癒を目指して行われている。薬の種類や量、投与方法によりさまざまな副作用が起こりえる。副作用を予防、軽減するために支持療法も併せて行われる。

がんと、その予防についての正しい知識の徹底と早期発見・早期治療の普及に全国の組織をあげて取り組みます。

（順不同）

「がん検診
あなたの暮らしの
習慣に」
公益財団法人日本対がん協会 2024年度がん征圧スローガン

市民の健康と福祉を守る
一般社団法人 横浜市医師会
・聖灯看護専門学校　・横浜市北部夜間急病センター
・横浜市夜間急病センター　・横浜市南西部夜間急病センター

未来を守る、確かな医療。
公益社団法人 川崎市医師会
川崎市中原区小杉町3丁目26番7　☎044-711-3011

一般社団法人 相模原市医師会
会長 細田 稔
〒252-0236 相模原市中央区富士見6-1-1
相模原市総合保健医療センター 5F　TEL.042-755-3311
https://www.sagamihara.kanagawa.med.or.jp/

一般社団法人 横須賀市医師会
会長 三屋公紀
〒238-0005 横須賀市新港町 1-11　TEL.046(822)0542

一般社団法人 三浦市医師会
会長 塩﨑一正
〒238-0221 三浦市三崎町六合32 三浦合同庁舎2階
TEL046(881)2376

一般社団法人 逗葉医師会
会長 田嶋博雄
逗子市池子字桟敷戸1892番地6
TEL 046(871)3405(代)

公益社団法人 藤沢市医師会
会長 石原宏尚
〒251-0032 藤沢市片瀬339-1
TEL0466-22-3041　FAX0466-27-8799

公益社団法人 鎌倉市医師会
会長 山口 泰
〒248-0013 鎌倉市材木座3-5-35
TEL.0467(22)1245

一般社団法人 茅ヶ崎医師会
会長 髙山慶一郎
〒253-0041　茅ヶ崎市茅ヶ崎 3-4-23
☎0467(87)2731

一般社団法人 平塚市医師会
会長 久保田 亘
平塚市東豊田448-3
TEL.0463(52)0355

公益社団法人 大和市医師会
会長 横田隆夫
大和市鶴間1-28-5
TEL046(263)3171

一般社団法人 座間綾瀬医師会
会長 五十棲 優
座間市緑ケ丘一丁目1番3号
☎046(251)0279

一般社団法人 海老名市医師会
会長 髙橋裕一郎
海老名市さつき町41番地
☎046(234)3241

一般社団法人 厚木医師会
会長 三宅正敬
厚木市厚木町 6-1　厚木医療サポートセンター
☎046(222)1259

一般社団法人 秦野伊勢原医師会
会長 秋澤孝則
〒257-0031　秦野市曽屋11番地
☎0463(81)5018

一般社団法人 小田原医師会
会長 渡邊清治
小田原市久野 115-2　おだわら総合医療福祉会館 4 階
☎0465(35)5677

一般社団法人 中郡医師会
会長 竹末良三
中郡二宮町二宮1410　二宮町保健センター内
TEL.0463(72)3821

一般社団法人 足柄上医師会
会長 飛彈康則
〒258-0021足柄上郡開成町吉田島580
TEL0465-83-1800

公益社団法人 横浜市病院協会
会長 松井 住仁
〒231-0063 横浜市中区花咲町2-66 桜木町駅前ビル 4 階
☎045(250)5717

公益社団法人 川崎市病院協会
会長 内海 通
〒211-0067 川崎市中原区今井上町1-34 和田ビル 3 階
☎044(711)9344

公益社団法人 相模原市病院協会
会長 上屋 敦
〒252-0236 相模原市中央区富士見6-1-1(相模原市総合保健医療センター5F内)
TEL.042(755)0531　FAX.042(755)0532
E-mail：sagamihara-h.a@mist.ocn.ne.jp
ホームページ：http://s-ha.or.jp

公益社団法人 神奈川県看護協会
会長 長野広敬
〒231-0037 横浜市中区富士見町 3-1
☎045(263)2901

公益社団法人 神奈川県歯科医師会
会長 守屋 義雄
〒231-0013 横浜市中区住吉町6-68
☎045(681)2172

一般社団法人 横浜市歯科医師会
横浜市歯科保健医療センター
会長 吉田直人
〒231-0012 横浜市中区相生町6-107 ☎045(681)1553・(201)7737

公益社団法人
神奈川県病院薬剤師会
会長 山田裕之
〒235-0007 横浜市磯子区西町14-11
TEL 045-761-3345　FAX 045-761-3347

公益社団法人
神奈川県薬剤師会
会長 小川 護
〒235-0007 横浜市磯子区西町14-11 神奈川県総合薬事保健センター 2F
TEL 045-761-3241　FAX 045-751-4460

医療法人 長谷川会
SHONAN HOSPITAL 湘南ホスピタル
理事長・院長 木原明子
〒251-0047藤沢市辻堂3-10-2 TEL.0466(33)5111(代)

一般社団法人
神奈川県臨床検査技師会
会長 芹澤昭彦
〒231-0023　横浜市中区山下町 51 番地 1 読売横浜ビル 5 階
TEL 045-212-2862 ／ FAX 045-479-8884

一般社団法人 神奈川県産科婦人科医会
会長 中野眞佐男
横浜市中区富士見町 3-1
☎045(242)4867

公益社団法人 神奈川県放射線技師会
会長 田島隆人
〒231-0033 横浜市中区長者町4丁目9番地8
ストーク伊勢佐木一番館 501 号室
電話 045-681-7573

命をつなぐ
これまでも　これからも
公益社団法人 神奈川県医師会
会長 菊岡正和
〒231-0037 横浜市中区富士見町3-1
(神奈川県総合医療会館内)
電話 045(241)7000

公益社団法人 神奈川県病院協会
会長 吉田勝明
〒231-0037 横浜市中区富士見町3-1
(神奈川県総合医療会館内)
電話 045(242)7221

一般財団法人 神奈川県労働衛生福祉協会
会長 赤城邦彦
〒240-0003 横浜市保土ヶ谷区天王町 2 丁目 44 番 9
☎045(335)6900　FAX 045(335)7179

公益財団法人 神奈川県予防医学協会
理事長 根本克幸
〒231-0021 横浜市中区日本大通58番地日本大通ビル
☎045(641)8501(代表)

神奈川県保険医協会
理事長 田辺由紀夫
〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-23-2 TSプラザビルディング2F
☎045(313)2111